

私たちの「いのち」を見つめ、考える上映会



生きるのに理由はいるの？

「津久井やまゆり園事件」が問いかけたものは、、、



津久井やまゆり園事件とは

2016年7月26日未明、神奈川県相模原市の障害者施設「津久井やまゆり園」に、その施設の元職員である植松（うえまつ さとし）が侵入し、障害者を19人殺害、27人を負傷させた。植松は、意思疎通のとれない人間を心失者と呼び、抹殺の対象とした。<人間として70年養う為にはどれほどの金と人手、物資が奪われるかを考え、ドロ水をスリ飲み死んでいく子どもを思えば、心失者のめんどろをみている場合ではありません>といったような特異な論法による犯行だった。（参考：『開けられたパンドラの箱 やまゆり園障害者殺傷事件』創出版/2018）

なぜ事件は起こったのかに迫るのが本作『生きるのに理由はいるの?』（監督・澤則雄/76分/ドキュメンタリー）。

上映 **2024.9.22** (日) ① 13:00~14:16 対談 14:20~15:00 各回終了後に監督と
② 15:30~16:46 対談 16:50~17:30 二通論さんの対談が
③ 18:00~19:16 対談 19:20~20:00 あります

会場 白石区民センターホール(白石区南郷通1丁目 地下鉄東西線・白石駅6番出口直結))

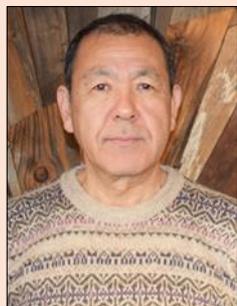
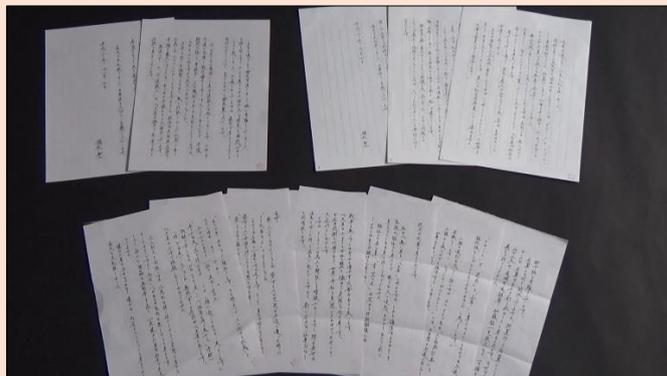
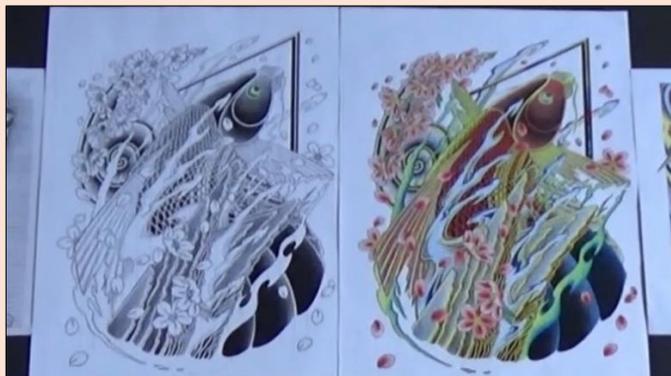
主催：札幌映画サークル 共催：全国障害者問題研究会北海道支部

後援：札幌市 協賛：焼鳥じゃんぼ 札幌市中央区南5条西4丁目(中小路東向き) TEL 011-531-6451

澤則雄監督からのメッセージ

津久井やまゆり園事件の裁判は、2020年3月16日、死刑判決が出て終わりました。結審の日、植松被告は、最後に控訴はしません、と法廷で発言しました。同年3月30日、弁護人が控訴したのを植松本人が取り下げ、死刑が確定しました。私は16回の公判のうち、7回傍聴しました。果たして、何が裁かれ、何が裁かれなかったのでしょうか。そんな問いのもとに作ったのが本作であり、最初（2019年）に作った50分版に裁判記録を付加し、76分のドキュメンタリーになりました。この度の札幌の上映会には私も足を運び、獄中での植松死刑囚のようすや彼が考えていることなどを含めて語りたいと考えております。

植松死刑囚から送られてきた絵と手紙



監督 澤 則雄(さわ のりお)

1952年生まれ、苫小牧市出身。苫小牧東高を卒業後、東京でフリーターとなり、遠洋マグロ漁船に乗った経験もある。高校先輩の映画監督・稲塚秀孝さんの紹介でテレビ番組制作の世界に入り、共同テレビなどで情報番組やバラエティーの制作に携わった。64歳で定年退職し、フリーのディレクターとして映像制作の仕事も受注している。2015年にグループホームを運営しているNPO法人理事長と出会い、浅野士郎ゼミ(神奈川大学教授、元宮城県知事)を受講して、「津久井やまゆり園事件」を知り、取材を始めた。2019年2月から全国で上映会を開始。

本上映会のもつ意味 二通 論



『生きるのに理由はあるの?』は、2020年3月15日(日)に、稲塚秀孝監督作品『奇跡の子どもたち』とともに白石区民センターホールにて上映されるはずでした。ところが折からの新型コロナウイルス感染症の広がりによって中止を余儀なくされました。あれから4年半の歳月を経て、ようやく『生きるのに理由はあるの?』の上映会に漕ぎつけののです。しかも、当初の50分版ではなくて、裁判記録を加えた76分版です。競争と差別と排除、自己責任論に覆われる社会がいいのか、それとも、一人一人の持てる力が引き出され、高め合っていける社会がいいのか。津久井や

まゆり園事件は、この二つの対立する社会観の狭間で起きたともいえます。植松は前者に潜む強い魔力に引っ張られたといえますが、現代社会が「理念」として選択しているのは後者です。だれもが生きやすい共生社会の実現を目指しています。

人間は、障害の有無、軽重にかかわらず、外界とのやりとりをとおして何者かになりゆく存在です。生きる過程においてそれぞれの存在の意味、理由がせり上がってくるのです。このことを事実として体感、共有する営みが求められています。その際、事件から一年後の毎日新聞「余録」(2017・7・23)が、植松の「思想」に伝説の一作『夜明け前の子どもたち』(監督/柳澤壽男:1968年)を対置したように、映画の力を借りるという手があります。「いのち」を見つめ、考える本上映会に、ぜひいらしてください。

(につう さとし 1951年生まれ、札幌市出身。札幌学院大学名誉教授、札幌大谷大学客員教授。

映画関連著書に『映画で学ぶ特別支援教育』、『特別支援教育時代の光り輝く映画たち』がある。)

料金：前売1,300円 チケットは道新プレイガイド・札幌市民交流プラザで取扱い中 当日1,500円

会員(札幌映画サークル/全障研)1,000円

前売券予約・問い合わせ 電話 090-7055-0074 (岩本)

予約用QRコード

メール sapporokinema@yahoo.co.jp

